



より高度な臨床
より深い研究
より広い教育
より積極的な保健活動

地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



魅力ある地域のために

平鹿総合病院 院長 堀口 聡

こんにちは、堀口聡と申します。今年度から平鹿総合病院の院長に就任いたしました。平鹿横手地域にお住まいの皆様、医療機関、福祉関係者の皆様、よろしくお願いいたします。

平鹿横手地域は超高齢化社会であり、医療、介護、福祉のあり方は、複雑に関連しており、非常に重要です。そのため、地域医療連携が大変重要な役割を果たしていることは間違いありません。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域住民の皆様にも多大なご協力をいただきました。今回のような災害級の災厄に対応するためには、地域住民の皆様、それぞれの医療機関、介護施設、福祉施設、行政が協力して対応することが必要不可欠であることがわかりました。

この3月に平鹿総合病院は病棟を削減し、さらなるスリム化を果たしました。機動力を増し、地域中核病院としての機能を高めていきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いいたします。

今後、平鹿総合病院も地域医療連携を推進し、健康で豊かな平鹿横手地域を実現し、魅力ある街づくりの一翼を担うことができるように努力していきます。

もくじ

魅力ある地域のために	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
当院の活動報告	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

充実した高齢者医療を実現するために



渡邊医院 院長
渡邊 啓介



地域連携室や平鹿病院の先生方には日頃より大変お世話になっております。
2021年より当院では私、渡邊啓介が父、毅にかわり地域の患者さんの診療にあたっています。私の専門は内科・高齢医学ですが、高齢者の方々は些細なことから体調を崩してしまい入院での治療を受けざるをえないことがあります。
軽症の感染症などは自院にて治療を行います。患者の状態や既往疾患、全身の状態を考慮し、連携室を通して平鹿病院の先生方へ入院のお願いをすることが多く、大変ご苦勞をおかけしております。
高齢者には多彩な基礎疾患や生活上の問題があり、治療にも包括的な診療を求められます。昨今、コロナ感染後の医療制度として「かかりつけ医制度」が注目されておりますが、高齢者においては、その治療の複雑性から1患者に対して1医師では対応しきれないのも実情です。こうした場合に多くの医療職が連携して治療にあたる必要があります。日頃より医療のみならず介護福祉領域でも総合病院ならではの多角的な視点で加療いただいておりますが、こうした連携機能なくして高齢者医療は継続できません。今後とも地域医療の要として、何卒よろしくお願ひいたします。

地域に根ざした信頼される施設を目指して！



介護老人保健施設
やすらぎの苑 事務長
鈴木 一



私が勤務する介護老人保健施設やすらぎの苑は介護保険制度がスタートする5年前の1995年4月に市の北東部杉沢地区に設置されました。今年で満28年目を迎えます。
介護老人保健施設の役割は病院と在宅の中間施設として、生活機能向上を目的としたリハビリテーションを行い、在宅復帰を目標に心身の機能回復、活動の向上を行うための施設と位置づけられております。
一昨年、平鹿総合病院の榎本先生が地域医療連携室の室長に就任され、当苑にスタッフと共に来苑されました。その際、病院と当施設の連携、役割について協議させて頂きました。そこで、当苑としても病院から退院後、自宅での生活が困難な患者さんを受入れ、一定期間リハビリを行ったうえで、ご家庭にお帰り頂くという一連のシステムについて確認させて頂きました。
当苑と平鹿総合病院とのこうした取り組みを通して、双方が地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域に根ざした信頼される病院、施設を目指して、より一層努力して行く事を誓い合った次第です。

当院の活動報告

地域リハビリの連携を



平鹿総合病院
リハビリテーション科
技師長

小川 真紀子



リハビリテーション科は整形外科・脳神経外科等の術後や心臓リハビリの他、様々な疾患の患者さんに対して、入院直後から目標設定することで早期回復・早期退院を目指しています。早期の介入をすることで安静臥床による廃用症候群の予防にもなります。早期介入率（起算日より14日以内にリハビリを開始した患者）は昨年度88.5%と毎年9割前後を維持しています。リハビリテーションは厳しい訓練というマイナスなイメージがありますが、出来るだけ前向きで意欲的に退院を迎えられるようにという思いで患者さんに向き合っています。しかし、在院日数の短縮により患者さんや家族の希望するゴールに達することが本当に難しい状況となっています。今後益々在院期間が短縮されていく中、患者さんにとって出来る限りの機能回復を目指し日常生活に戻るためには地域の病院や介護福祉施設との連携を今まで以上に強化していくことが必要と考えています。

現在、転院や老健施設への退院時はサマリーを作製することで、切れ目のないリハビリを目指しています。新型コロナウイルス感染症の蔓延により中断していた業務を感染状況に合わせながら今後再開していく方針です。家族やケアマネのリハビリ場面の見学や退院前にリハビリスタッフが自宅を訪問し患者さんの運動機能に合った生活方法や補助具・リフォームの提案をすること等を積極的に進めたいと思っています。県南における地域連携に少しでも貢献出来ればと考えておりますのでよろしくお願い致します。

医療福祉相談室の活動



平鹿総合病院
医療福祉相談室 係長

菊地 由佳理



医療福祉相談室には現在4名のスタッフが在籍し患者さんに安心して療養していただけるよう問題解決のための支援を行っております。

病気やけがにより健康な時には予想もしなかった様々な困りごとが発生します。例えば、医療費の支払いに不安を抱える方へは高額療養費制度を始めとした負担軽減のための制度をご紹介します。また、退院後の療養生活やご家族の介護についてお困りの方には在宅介護サービスの利用や施設入所の調整を行っております。

本年度は2月の時点で相談対応の総件数7,328件と多くの方にご利用いただいております。特に医療スタッフとの連携に関しては2,153件と全体の29%を占め、院内多職種との協働の上で私たちの業務が成り立っていることが感じられます。

日々の業務の中で、急激な過疎化や単身者の増加、新型コロナウイルス感染症による生活への影響等、多くの課題が見えてまいります。時代に即した支援のためには様々な資源との連携体制をより強固なものとしていくことが必要であると考え、地域の皆様とさらなる連携・協働を図っていきたく思っております。今後も引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

褥瘡を中心とした地域連携への取り組み

平鹿総合病院 形成外科診療科長 村木 健二

日頃より地域連携に際して、皆様の御協力を賜り感謝申し上げます。この場を借りて我々形成外科が取り組んでいる地域連携における役割を御紹介致します。まず前提として、褥瘡とは全身疾患であり、全員で加療していくものです。褥瘡ができるに至る過程において、

- ①動けなくなった
- ②食べられなくなった
- ③ケアが行き届かなかった

この全てを、我々形成外科が請け負う事は不可能です。動けないのであれば、何が原因なのか？食べられないのであれば、経管栄養が必要なのか？ケアが必要なのか？行政サービスの介入をどうするのか？など、それぞれにやるべき事があります。従って、褥瘡は入院して手術をすれば良いのではなく、適切な事をスムーズに提供する事が重要です。褥瘡は社会全体で治していくものです。私が着任してから、褥瘡の勉強会としてオンラインを併用した **Y-ALCN (Yokote-All Lesion Care Network)** を立ち上げました。

三ヶ月に一回のペースで開催し、各分野の専門家による講演を行っております。情報をアップデートする機会として是非御利用頂けると幸いです。

地域連携とは、双方の理解と協力が無ければ成り立ちません。地域に根差す全員が幸せになれるよう、今後とも宜しく御願い申し上げます。



地域医療連携室スタッフ

室長	榎本 好恭
副室長	堀川 洋平
事務次長 (医事課長)	武藤 進
看護主任	大沢 知佳
事務	佐藤 滉
事務	中嶋 秋子
事務	高山 昌子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字八ツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

*月曜日～金曜日(土日祝日除く) 8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail : tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp